

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

多発性骨髄腫における新規治療の臨床的効果と合併症の発症に関するアウトカム研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院 血液・腫瘍内科（研究責任者） 高橋宏通

＜研究期間＞

承認日 ～ 西暦 2027年 3月 31日

＜対象となる方＞

本研究の対象患者の期間:西暦 2001年 4月 1日 ～ 西暦 2024年 3月 31日に当院で多発性骨髄腫およびその類縁疾患と診断を受けられた方。

＜研究の目的＞

多発性骨髄腫（multiple myeloma：MM）は、形質細胞の腫瘍性増殖と、その産物である免疫グロブリン（M蛋白）の血清・尿中増加により特徴づけられる疾患です。わが国では人口10万人あたり約5人の発症率で、本邦での死亡者数は年間4,000人前後であり、全悪性腫瘍の約1%、全血液がんの約10%を占め、発症率、死亡率ともに年々増加傾向にあります。

多発性骨髄腫においては、たくさんの治療法が開発され、さまざまな薬剤による治療法を受けることができます。しかし、それらは海外からのデータであり、日本においてどのような治療戦略が良いかというのは詳しくわかってはおりません。そのため、当院での治療成績を把握することが、これからの治療法を決定する意味でも検討すべき重要事項となっています。

これらの研究において我々は、新しい治療を行った多発性骨髄腫患者さんのデータを用い、過去の症例を再検討することで当院での多発性骨髄腫患者さんにおける治りやすさ、治りにくさの要因を明らかにし、今後のより良い治療戦略へと応用することが目的です。

＜研究の方法＞

該当する症例の診療録において、多発性骨髄腫の疾患特性（血液・尿検査結果、画像検査、診療録および病理保存検体の形態学的・細胞遺伝学的・免疫学的プロファイル）と臨床像の関連性、および予後との相関関係を調査します。個人情報は厳密に管理され、個人が同定され得るデータは施設から出ることはありません。

＜研究に用いる試料・情報の項目＞

本研究は日本大学医学部附属板橋病院血液・腫瘍内科において診療を受けた発性骨髄腫患者さんの臨床データ（検査データ，診療記録，保存病理検体）を用いて行う研究です。

検査データ，診療記録をまとめ、データベース化いたします。

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

血液・腫瘍内科 氏名：高橋 宏通

電話：03-3972-8111 内線：（医局）2403 （PHS）8033

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方